

今後の調査と整備

これまでの3年間で、第1号墳墳丘の基本的な構造は概ね明らかとなりました。

第1号墳では、平成21年度に墳頂部を中心に発掘調査を実施し、計画された調査を完了する予定です。

調査終了後は、この成果をもとに整備基本計画を策定し、史跡の保存と活用をはかるための具体的な整備に着手していきます。



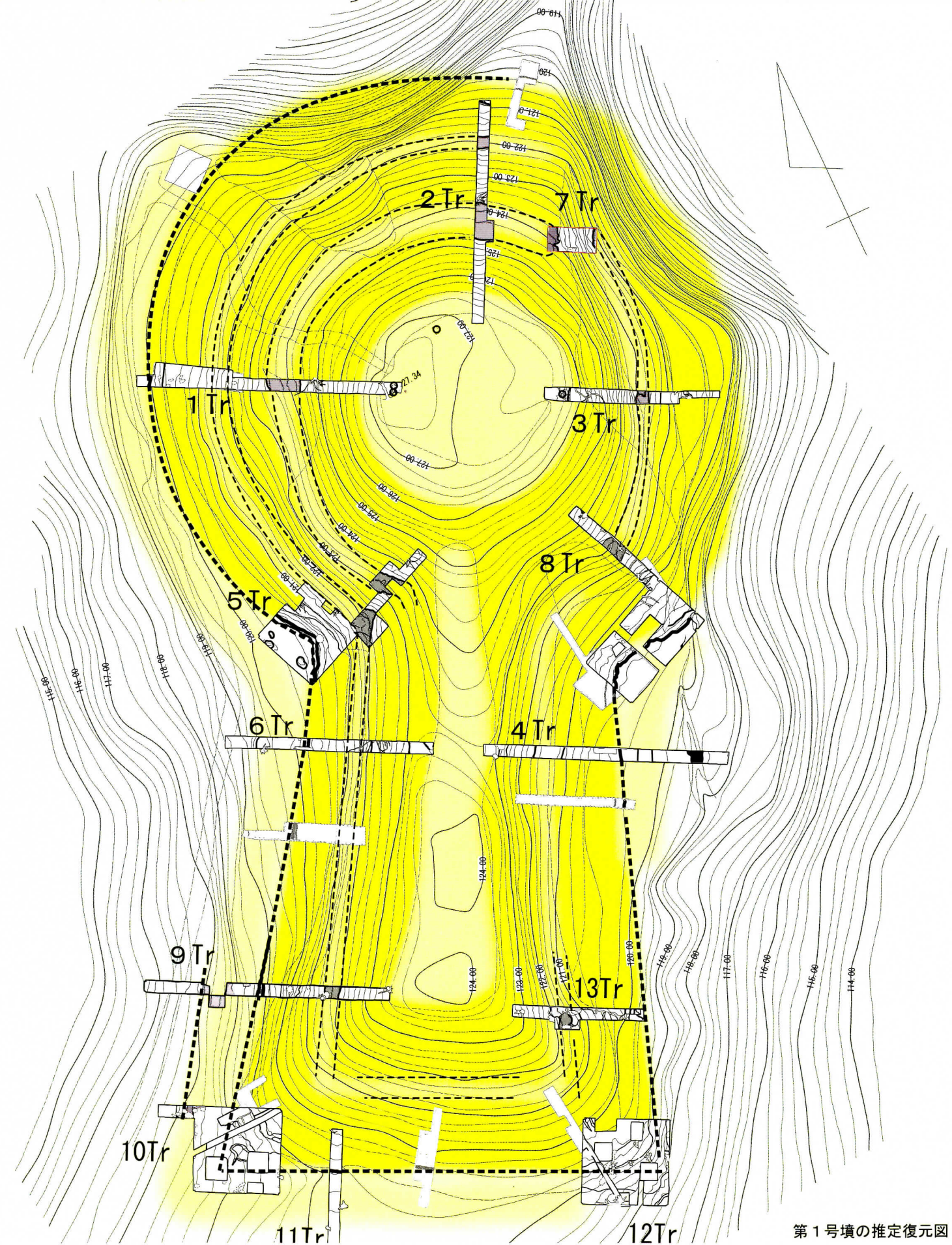
8 前方部西隅角
一部で盛土が確認されましたが、コーナー部分の墳丘は失われており、確認することはできませんでした。



9 現在の第1号墳
手前が前方部、木々の間から見える奥の高まりが後円部です。

アクセス

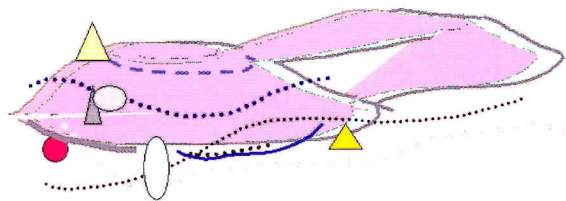
- 第1号墳へ
JR逗子駅前バスのりば4番
逗17系統「葉桜」行 バス停「葉桜」下車 徒歩約8分
- 第2号墳へ
JR逗子駅前バスのりば3番
逗11系統「葉山町役場・福祉文化会館（海岸回り）」行
逗12系統「葉山（海岸回り）」行
バス停「富士見橋」下車 徒歩約15分
※両古墳間は約8分のなだらかな尾根道です。



第1号墳の推定復元図



発行日 平成21年10月30日
編集・発行 逗子市教育委員会・葉山町教育委員会
〒249-8686 神奈川県逗子市逗子5-2-16
逗子市教育委員会 教育部社会教育課文化財保護係
046-873-1111 (代表)
〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内2050-9
葉山町教育委員会 教育部生涯学習課
046-876-1111 (代表)
印刷 有限会社 ユニオン印刷



神奈川県逗子市・葉山町

長柄桜山

平成18～20年度国指定史跡長柄桜山古墳群の発掘調査

古墳の概要

長柄桜山古墳群は、逗子市と葉山町の境界線上の丘陵上に立地する2基の大型前方後円墳からなります。ともに全長約90mをはかる県内では現存最大級の規模で、墳丘形状の残りも良いことから、平成14年12月19日に国の史跡に指定を受けました。

逗子市と葉山町では、平成18年度から第1号墳について、史跡の整備に必要な発掘調査を実施してきました。平成20年度までの三年間の調査で、墳丘の形や構造に関する多くのことが分かってきました。

墳丘

古墳は平らなところにすべて土を盛り上げて造ったのではなく、丘陵を削り出して形を整えた後、その上に盛土をしていることが分かりました。盛土は後円部では中段テラスより上部で、前方部は古墳の裾まで施されていました。

古墳の形は左右対称ではなく、後円部東側はいびつな形をなしているようです。後円部の東側は急傾斜を呈する崖になっているため、築造にあたっては地形に古墳の形を合わせた可能性が考えられます。

また、前方部の現在の姿は幅が狭く前方部隅角に向かって広がる撥（ぼち）形をなしていますが、調査の結果前方部両側面は後世に削り取られていることが分かり、本来の前方部はもっと幅広の台形をなしていたことが確認されました。削り取られた場所から中世末～近世初頭の遺物が出土しているため、その頃にここで土地利用が行われたようです。

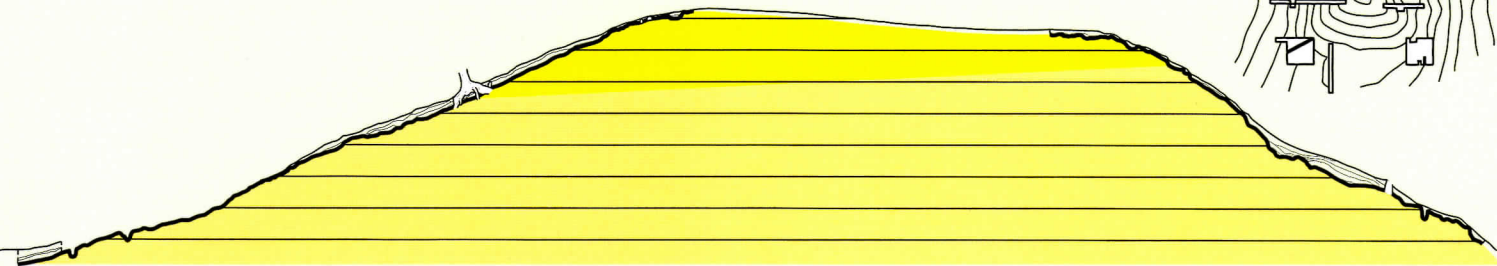
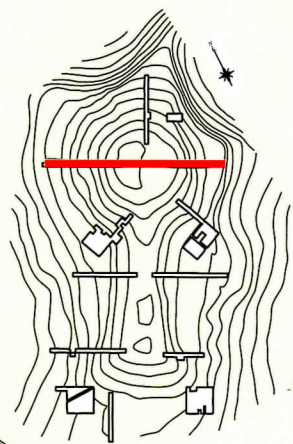
さらに墳丘斜面の途中には、後円部に二箇所、前方部に一箇所平坦面（テラス）が巡っていることが分かり、段築と呼ばれる古墳築造技術が採用されていることが明らかになりました。



1 西側くびれ部墳丘
後円部墳丘の下半部は黄色い岩盤を削りだして形を作っています。正面の高まりが後円部の墳丘です。



2 前方部前面の墳裾
前方部の前面は後円部とは異なり、墳裾から盛土を施していることが分かりました。破線で囲った範囲が盛土。



3 後円部の断面形状
後円部西側に比べ、東側は斜面の角度が急になっており、古墳が左右対称の形にはならないことがわかります。

埴輪

第1号墳の後円部墳頂部の縁辺には埴輪が列をなして立ち並んでいたことが分かりました。長柄桜山古墳群で埴輪が出土することは知られていましたが、発掘調査により築造時に置かれた場所が明らかになり、古墳完成時の姿の一端がみえてきました。

ただし前方部墳頂部では、今のところ埴輪列の存在は確認されていません。前方部の墳丘斜面や裾付近からも埴輪は発見されていますが、後円部に比べると圧倒的に少ないことから、一様に墳頂部縁辺に樹立されていたわけではなかったのかもしれませんが。

出土した埴輪には円筒埴輪と壺形埴輪の二種類があります。円筒埴輪は文字どおりの形で、途中に突帯と呼ばれる突起が一定間隔に巡り、その間に△形や□形の透かし孔が開けられているものです。壺形埴輪は、形は壺そのものですが、最初から底に孔が開けられており、実用品ではなくあらかじめ古墳に樹立するためにつくられたものです。



5 後円部墳頂部の埴輪列
墳頂部平坦面の縁辺に埴輪が2個体並んでいる状態で発見されました。



6 くびれ部墳裾で発見された埴輪
墳丘上から転落し、古墳の裾から発見されました。中央の壺形埴輪は逆さまの状態です。



4 後円部中段テラスから出土した埴輪
墳頂部に樹立されていた埴輪が転落し、斜面途中のテラス上に留まって出土しています。



7 前方部側面の墳裾で発見された埴輪
写真奥に前方部墳丘があり、墳裾付近で埴輪が破片となって出土しています。